

金田小学校指定緊急避難場所

「指定緊急避難場所」とは、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合にその危険から逃れるための一時的な避難場所として、市が指定する施設です。 <避難場所運営マニュアル>

- 金田小学校が指定されていますが、避難する場合は、金田小学校以外の避難場所に避難することができます。金田地区で金目川右岸地域に住まう方々は、金目川の橋を渡り金田小学校に避難することなく、金旭中学校や松延小学校にも避難することができます。
- 体育館が避難場所となり、洪水ハザードマップでは、浸水深 1.8m と指摘されています。浸水が懸念される時は、南校舎 3 階の図書室等の特別教室を利用します。
- 新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、受入れ人数は、通常時に比べ、著しく人数を減らしています。収容数を超える時には、特別教室等の開放を学校側に依頼します。

金田公民館

- 避難所（金田小学校）を開設するまでに至らない局所的災害時や自主避難の申し出があった場合には受け入れ施設として、市内の公民館を必要に応じて開設します。
<平塚市地域防災計画 一風水害等対策計画一>
- 公民館の開設に当たっては、防災行政用無線などにより市民の皆様に周知をいたしますが、開設前に自主的避難等により公民館への避難を希望される場合は、事前に災害対策課までご連絡いただきます。
<平塚市 HP>

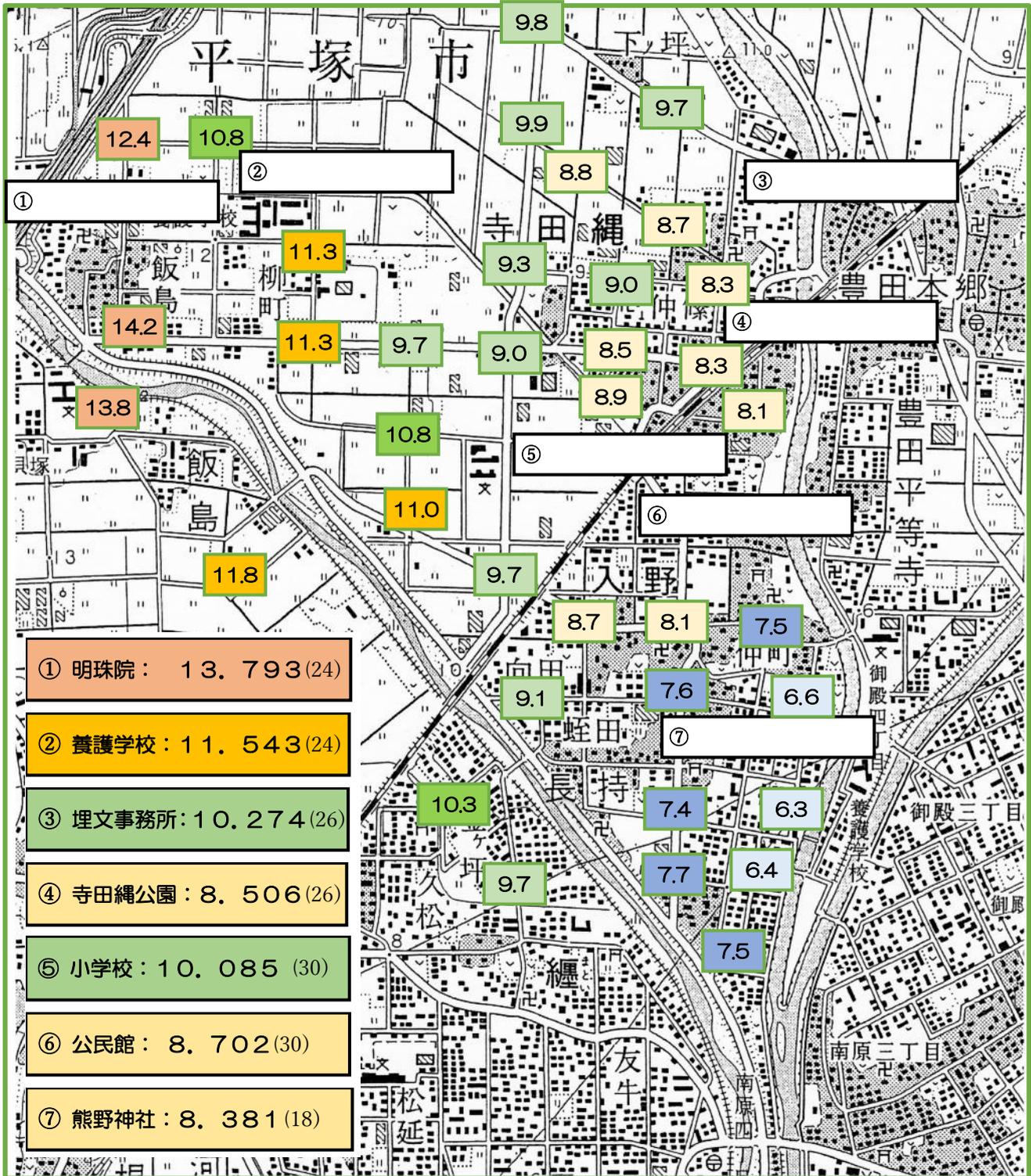
金田公民館 自主避難の手順

- 自主避難の希望者は、平塚市災害対策課（0463-21-9734）に連絡する。
- 平塚市災害対策課は、自主避難の受入れを判断する。
- 災害対策課 → 中央公民館 → 金田公民館に連絡。
- 避難について、各公民館の自治会等の区割りはなく、どこの公民館でも利用できます。





- 避難場所は、小学校体育館です。東側の出入り口を使用します。(駐停車も含まます)
- 水は低いところに集まります。西棲橋東側、金田駐在所・富士見橋付近が比較的低い土地です。豪雨の時、道路に水が溜まり、歩行が困難になったことがあります(道路冠水)。
- 小学校への避難ルートを、あらかじめ、歩いて安全・安心なルートの確認をしましょう。

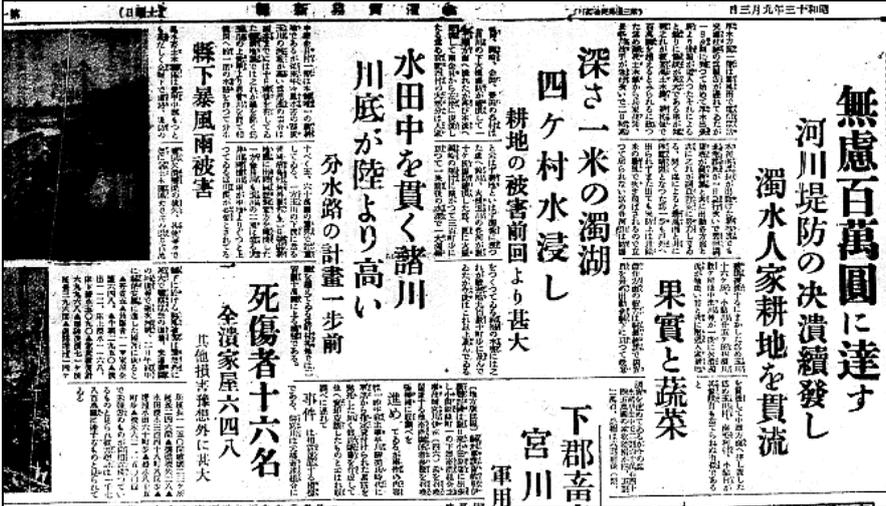


（水準測量値、国土地理院・標高がわかるWeb地図より） <平成13（2001）年地形図 単位：m>

①～⑦の水準値を記入し、色別の位置を考え、土地の高さの傾向を把握しよう。

台風により堤防が決壊し、洪水が金田地区を襲いました。決壊による洪水の流れは？

■ 1938（昭和13）年9月3日付 横浜貿易新報（現・神奈川新聞）



深さ1米の濁湖
四ヶ村水浸し
耕地の被害前回より甚大
金目・岡崎・金田・豊田の各村は、金目川の下大槻堤防が破損して一時土屋方面へ流れたが、再び本流へ逆流して南金目から左岸に決壊したる為、前記四村の大部分は、人家といわず耕地と

いわず濁流に浸った所へ、鈴川・大根・玉川の各川が数十ヶ所堤防破損した為、更に大根・岡崎の両村に広がって、三百町歩に亘って一米前後の水深で一大濁湖をつくっている。前回の水害には之が被害地九百数十町歩に及んでいたが、今度はこれ以上に及んでいる。

平塚方面

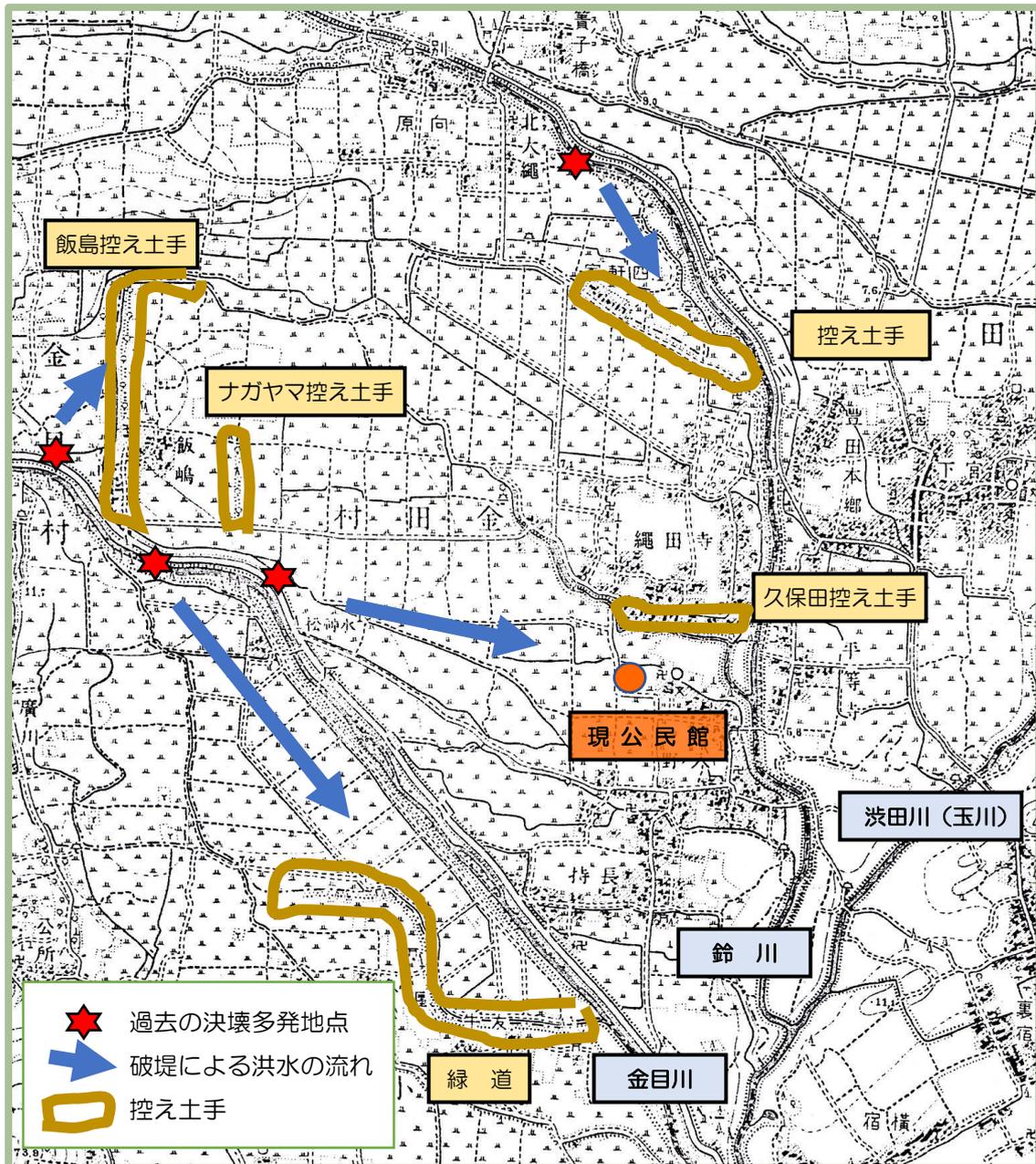
見渡す限り水の中 金目川の大氾濫 湘南地方の被害甚大
湘南地方の大暴風雨の被害は最も激甚を極め、工場・住宅・学校等大建物の被害は二十万円を突破し、農作物の被害は畑作水田等、平塚署管内だけでも十数万円に達している。ことに金目川の氾濫は惨状を極め、金目橋は半分を流出し、金目村地先き大マの金目県道は120間が損潰して、見渡す限りの水田は一面水浸しとなった。同村では、消防組織農民千余名が総出動して、欠潰箇所ので堤防の応急修理に活動している。



- ・ 台風による被害でした。県内の最大瞬間風速は47.7m、総雨量は平野部で200～400mm、西部の山間部は400～800mmの多くに達した。このため各河川とも警戒水位を突破して堤防はいたる所で越水、決壊し県内の冠水地域は30km²を超えた。
台風通過後に前線が発生し、県内では100～200mmの大雨が降り、被害を大きくした。
〈神奈川県災害史〉

〈体験談〉 『金田駐在さんの前は、子供では背が立たないくらい深くなった』
『金目川と鈴川が切れ、飯島を除いた集落に水が溜まり、特に長瀬には水が集まった』

洪水から住民の生活を守るために「控え土手」(ひかえどて) を築きました



- 通常、堤防(土手)は、河川の流れを制御するために築かれますが、平地に築かれた「控え土手」は、洪水の流れを受け止め、さえぎり、集落や田畑を守ります。
- 寺田縄の北部の控え土手は、明治時代に、他は記録がなく築堤の時期は判明しません。おそらく、江戸時代の金目川の堀替え以降と推測されます。
- 「控え土手」が築かれるほど、洪水の深刻な被害に悩まされていたことが分かります。
- 「控え土手」は飯島に遺構として残り、長持・纏境の緑道は散歩道となり、共に歩けます。